

## 農業技術普及に社会的アプローチが与えた影響<その4>

### 栽培資金の確保・モチベーションの維持に与えた影響

国際耕種が2015～2021年にかかわった北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト（NUFLIP）では「市場志向型農業」と「生活の質の向上」を活動の二本柱として農家の生計向上に取り組んだ。本シリーズはNUFLIPにおいて、「生活の質の向上」という社会的アプローチが「市場志向型農業」の技術普及に与えた影響を紹介している。

#### 栽培資金の確保

市場志向型の野菜栽培には種子・肥料・農薬など、相応の資金の投入が必要であることから、前作の売り上げからこれらを確保していくことは、市場志向型野菜栽培を継続するうえで必須である。しかしながら、現地の農家はそもそも「農業に現金を投資する」という考えに乏しく、売り上げのすべてを家畜に使ってしまう人もいた。種子を購入する資金は確保している農家でも「肥料や農薬はあとで買う」という考えが根強かった。しかし野菜栽培において、施肥や農薬散布はタイミングが重要であり、必要になってからお金を工面するのでは遅い。この考えを変えるには随分と苦勞を要した。

事前に十分な栽培資金を確保するために、生活の質の向上分野で取り組んでいた「家計管理」の研修は非常に効果的であった。もともとこの研修は、家庭内の支出を明らかにし、野菜栽培から得られた収入を家族のために上手に使うことを目的として、実施されていた。しかしながら「予想される支出」に「野菜栽培に必要な資金」を組み込んだことで、持続的な野菜栽培の定着に大いに寄与したと考えている。



家計管理の研修風景

#### モチベーションの維持

現地の農家にとって、NUFLIPが推進する市場志向型の野菜栽培は「集約的な栽培管理が求められる」「成功失敗の幅が大きい」「栽培に資金が

かかる」といった点で、これまでのトウモロコシやゴマといった自給作物生産とは全く異なるものであった。そのため、新しい技術を学ぶモチベーション、圃場を集約的に管理するモチベーション、プロジェクト終了後も野菜栽培を継続するためのモチベーションをいかに維持するかは、野菜栽培技術が普及・定着するかどうかを左右する重要な要素であった。

野菜栽培へのモチベーションを高め、維持をするにあたり生活の質の向上分野で取り組んでいた「家族の目標設定」の研修は効果的であった。この研修では、メンバーに家族とともに5年後と10年後の夢を描いてもらう。「野菜栽培から収入を得たら、何に使いますか？」というテーマのもと、家族で相談しながら絵を描き、それを皆の前で発表してもらう。当該地域では、伝統的に男性がお金の使い道を決めるが、家計の支出入をよく理解していないため、必要な支出への対応や将来を見据えた積立が上手にできていないケースが多かった。この研修では、伝統的な考えを無理に変えることなく、野菜栽培からの収入をよりよく家族の幸せのために使えるようになることを目的としていた。

この研修は播種実習の少し前に実施した。野菜栽培に取り組む前に、家族全員で「夢」を共有することで、野菜栽培に取り組むモチベーションが高めることができたと感じている。数年して、当時の農家を訪問すると、「あの時、描いた通り、野菜で家を建てたよ」と嬉しそうに語ってくれる農家に何人も出会った。中にはあの絵を未だに家に飾っている人もいる。



「家族の目標設定」の研修風景。家族で相談しながら、夢を描く。